

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	建築施工実習1
科目基礎情報				
開設学科	建築設計科	コース名		開設期 前期
対象年次	2年次	科目区分	選択	時間数 60時間
単位数	2単位	授業形態	実習	
教科書/教材	初学者の建築講座建築施工　市ヶ谷出版社、必携建築資料　実教出版株式会社、その他配付プリント			
担当教員情報				
担当教員	久本晴一郎		実務経験の有無・職種	有・施工管理
学習目的				
近年の建設業界における様々な施工不備や施工不良における社会的影響や、最新技術に対応できる組織の重要性を鑑み、優秀なる施工管理者のニーズは高まっている。建築施工実習1は教科書や映像では体得できない建築実施工体験を通して、建築工事のプロセスや建築施工管理の技術についての知識の習得を学習目的とする。施工計画について興味と理解を深め、各種実制作を基に、施工実務についての知識の習得、さらには、一級、二級建築施工管理技士、並びに、一級、二級建築士の学科試験合格に準ずる知識の習得も学習目的とする。。				
到達目標				
建築実施工体験を通して、建築工事のプロセスや建築施工管理の技術についての知識の習得のために次の3点を到達目標とする。 ①　施工計画書を理解でき、作成方法が理解できる。 ②　生産設計図を理解でき、作図方法が理解できる。 ③　建築施工管理の流れを理解でき、管理手法が理解できる。				
教育方法等				
授業概要	実施工により、建物を築造する上で、施工管理者としての実務に則した内容で授業を展開する。基本的には建築五大管理の流れに則して、品質管理、工程管理、予算管理、安全管理、環境管理の項目についての管理を目指す。具体的には、現設計図の読み込みから、工程表を含めた施工計画書の作成、生産設計図の作成、KYK活動による安全管理業務を実務レベルで習得する。			
注意点	授業には集中して、安全を最優先して取り組み、指定された備品等は、毎回持参すること。特に作業着等の準備は不要だが、サンダル履きや動き辛い服装は、不可。又、授業時数の4分の3以上出席しない者は単位を認定しない。日本工学院　授業心得（学生用）を守ること。			
方　評 法　価	種別	割合	備　考	
	提出作品	90%	各種提出した課題を評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画（1回～15回）				
回	授業内容		各回の到達目標	
1回	ガイダンス、安全教育		ガイダンス～新規入場者教育について理解できる、安全書類が作成できる。	
2回	Be-house制作実習①		図面の読み込み、製本作業、工程表作成方法が理解できる。	
3回	Be-house制作実習②		総合工程表を作成できる。	
4回	Be-house制作実習③		仮設・安全計画方法を理解する。	
5回	Be-house制作実習④		生産設計図（施工図）の作成方法の基本を理解する。	
6回	Be-house制作実習⑤		生産設計図（施工図）の平面図作成方法を理解する。	
7回	Be-house制作実習⑥		生産設計図（施工図）の断面図作成方法を理解する。	
8回	Be-house制作実習⑦		モデル教材建て方実習を通じてBe-houseのSE工法を理解する。	
9回	Be-house制作実習⑧		足場組立作業（業者依頼）について足場組立管理を理解する。	
10回	Be-house制作実習⑨		既存建物解体実習により解体方法を理解する。	
11回	Be-house制作実習⑩		実演習、土台、床、柱、梁の建方を通じて、それらの管理方法を理解する。	
12回	Be-house制作実習⑪		実演習、仮筋、小屋床、小屋梁の建方を通じて、それらの管理方法を理解する。	
13回	Be-house制作実習⑫		実演習、屋根、壁、窓枠、建具、の建方を通じて、それらの管理方法を理解する。	
14回	Be-house制作実習⑬		建方検査を通じて品質管理を理解する。	
15回	建築施工実習1総まとめ		建築施工実習1総まとめ。	